

令和六年度一般選抜（前期日程） 「国語」 解答例

「一」

問一 ①蓄 ②短絡 ③おういつ

問二 「生命の形骸」であるのに、生命の輝きを感じさせるものだから。（三〇字）

問三 妖精や鬼や悪漢が登場する神秘的な物語

問四 「死」のイメージを含んだ多義的な時空であり、さらに「死」によって統合されるもの。（四〇字）

問五 アンソールの仮面世界に刻まれた死という「腐蝕」を見つめることは、肉体的な痛苦と精神的な苦渋を伴う。だがそれは自己の「腐蝕」に気付き、生を全体的な広がりを持ったものへと拡張していく感覚を我々にもたらす。（一〇〇字）

問一 ア いつもの イ かわいらしい様子で ウ たくさん

問二 タ行四段動詞「放つ」連用形＋謙讓の補助動詞「聞こゆ」未然形＋打消の助動詞「ず」連用形＋完了の助動詞「つ」連体形

問三 若君

問四 入道が、若君を、片時も見申し上げないではどうして過ごすことができよう（いや、過ごせない）。

問五 尼君は、かつて入道と二人で、都を出立して一緒に明石に下ったのに、今回は入道を明石に残して一人で上京の途につくことになり、入道と一緒に上京できない悲しみと、一人で上京する不安で胸がいつぱいであるから（泣くのも道理である）。

問六 せめて都までの同道だけでもして欲しい。

問七 ① 「うき」は「浮き」と「憂き」の掛詞（懸詞）である。
② 長く過ごした明石から、頼りない舟に乗っての海路の帰京は心細く、そうした前途への不安で、つらい思いがいつぱいである。

問一 ①やむをえず ②がへ（え）んぜず ③これにより

問二 姉雖レ有ニ一時之榮一、不レ若ニ妹有ニ無憂之樂一

問三 与^{フレバ}ニ之^ニ奴婢^ヲ一、則^チ

問四 人におばを抱えさせて無理やり馬車に乗せる。

問五 なんぢ（じ）われをころさんとほつするかと。

問六 お婆の一人は符承祖の権勢を笠に着て利益をむさぼっていたが、姚氏に嫁いだお婆は利益を無理やり与えられても一切受け取ろうとしなかつたから。（六七字）